

平成27年度 第1回 宮古市中心市街地拠点施設市民検討委員会 議事録

1. 日時 平成27年5月15日（金）午後3時～午後4時40分
2. 場所 宮古市宮町 「陸中ビル」 3階会議室
3. 出席委員 16名
北原啓司、寺崎勉、赤沼正清、太長根理恵子、小野寺文雄、内田瑛子
盛合敏子、伊藤和榮、山下修治、佐香英一、鈴木光子、佐々木慶子
岩田博子、金野侑、平藤一氏幸、望月正彦
4. 事務局出席者 9名
企画部長 山崎政典、復興推進課長 多田康
同課市街地施設推進室室長 岩間健、同主任 竹田真人
都市整備部都市計画課復興拠点整備室室長 佐々木良幸
同主幹 高橋正浩、同主査 巖岩博之
同主査 畠中憲一郎、同主事 中尾和子
5. 傍聴者 1名
6. 議題 (1)「宮古市中心市街地拠点施設整備事業・建設設計」の関連業務について
(2)「市民の参画」の関連業務について
7. 議事録（要旨）

※ 市長（代理：企画部長）が各委員に委嘱状を交付した後、委員長に北原委員、副委員長に寺崎委員を選出し、委員長から挨拶。その後、議題について説明のうえ意見交換をした。

(1)「宮古市中心市街地拠点施設整備事業・建設設計」の関連業務について

主な意見及び質疑事項
<p>質疑</p> <p>・管理支援委託業務の「基本設計マネジメント業務」と「工事発注・契約支援業務」の違いがよく分からない。様々な関連業務があるようだが、これらは踏まえる必要があるのか。設計者に任せられないか。</p>
<p>回答</p> <p>・今回の事業は限られた日程の中で大規模な事業を行う必要がある。それらに係る業務が適正かどうかチェックする必要がある。理由としては基本設計の後、実施設計を行う段階で齟齬がないよう、第三者のチェックを入れたい。また、発注者の側を支援してもらい、次の実施設計・施工の準備を支援していただく。</p>
<p>質疑</p> <p>・委託事業は往々にして、色々なトラブルが発生する。管理の主体は、市にあるということを忘れないでほしい。</p>
<p>回答</p> <p>・公募型プロポーザルというのは、設計案ではなく、相手を選ぶ。提案の設計図をもって</p>

くるのではないので、設計内容は白紙だ。したがって、第三者がちゃんとチェックしなければならない。公募型プロポーザルはヒアリングを公開する。どのようなことを考えている人が応募したのか傍聴するにはよい機会だ。プロポーザルでは、選定されなかった企業の提案の良い所を取り入れることができる。案を決めるのではなく、人を選び、その人と相談していくというスタイルになる。次回の検討委員会では、その結果を含めてご議論できるかと思う。

(2) 「市民の参画」の関連業務について

主な意見及び質疑事項
<p>質疑</p> <ul style="list-style-type: none">・今までは保健センターと本庁舎が別になっていたが今度は一緒になる。市民はそのことを想像できていないと思うので、そのことをアンケートの中で文章化してほしい。 <p>回答</p> <ul style="list-style-type: none">・基本計画の概要版を添付する予定である。
<p>質疑</p> <ul style="list-style-type: none">・以前あった設備以上のものは本復旧で作らないということだが、元々乳幼児健診というのは市役所ではなく、県の保健所で担当していた。市役所の方に1980年代に移ってきたが、乳幼児健診をするスペースは考えられていない。今回の新しい建物には将来の子どもに希望を持てるような機能をお願いしたい。 <p>回答</p> <ul style="list-style-type: none">・健康課からも、事業実施スペースが従前から、手狭であったという意見もあるので検討したい。
<p>質疑</p> <ul style="list-style-type: none">・問4について、現在商店街では交流施設を開設しているが、飲食物等の持ち込みは制限せず気軽に利用してもらっている。アンケートの中で市民にとって、新しい施設を使いやすい為にはいかにすべきかについて、市民の意見を取り入れる設問を設けてはどうか。 <p>回答</p> <ul style="list-style-type: none">・問4については2つの項目について聞いている。ここの設問で必要ではないという意見が多いからその部屋を作らない、とはならない。どういうふうな部屋なら使うのか、使い方のイメージをもらえる設問を設けて聞けるようにした方がいい。アンケートでこういうものが欲しいというのを丁寧に聞いた方がいい。ワークショップを後々開催しないのであれば今のうちに聞くべき。
<p>質疑</p> <ul style="list-style-type: none">・質問の書き方について、「どちらともいえない」と「わからない」が同じ括りのようにになっているが、意思の表示具合が違うと思う。 <p>回答</p> <ul style="list-style-type: none">・「どちらともいえない」というのは関心がない、「わからない」は拒否をしている意味合

いがある。順番として「利用したい」「どちらかと言えば利用したい」「どちらともいえない」「あまり利用しない」「利用しない」「わからない」とすべき。

質疑

・問6について、現在の本庁舎・分庁舎について解体を前提とした設問になっているが、解体は既に決定しているのか。解体せずに利用すべきと考えている市民の方が意見を提案できないのではないか。

回答

・元々耐震性に問題があるため、現在の庁舎を移転する計画を立てた。整備費用についても、財政計画で解体費を含めて議会に説明しており、解体が前提となる。ただし、本庁舎は、階によって構造が異なるため、上層階を減築することで活用することは可能かもしれない。解体を前提とせず、広く意見を求めることを検討する。

・現在の庁舎はIS値が低い。市民の方から「東日本大震災で壊れなかったから問題ないのでは」という意見もあるが、庁舎自体は見た目以上にダメージはあった。減築するなどして活用する方法はあるが、長寿命化するための工事やバリアフリーに対応した工事など非常に高コストになる。

・このアンケートの最初に本庁舎・分庁舎を解体するとした場合のことをお聞きしますとしか書いていない。残した場合にどういう使い方ができると考えているのかというアイデアを聞くべき。

質疑

・問4-5について、「参加したい」という表現があるがこれは市等が主体となって開催するイベントに参加するのか、自らイベントを企画するなどしてイベントに参加するのか。

回答

・自発的にイベントなどを企画するイメージで考えている。

質疑

・問6について、本庁舎・分庁舎の解体について、なぜ解体するのかについての表現が必要だと考える。

回答

・加筆修正したい。

質疑

・問6について、利活用の方向性の項目で、市民が活用できるように整備するという項目で構成されているが、民間に活用させる考えはないのか。

回答

・新施設の用地取得費に補助金を充てており、民間への転用や売却については問題があるので、選択肢からは外している。

質疑

・問6-2について、利活用の例の3や4の「場」という表現、施設の整備を含めた内容

なのか。実現できる範囲での整理が必要なのではないか。

回答

- ・公共施設再配置計画との兼ね合いもあり、現実的かどうかは別途議論が必要である。
- ・場と書いてある以上は施設をイメージして丸をつける人もいるはず。将来的な施設の利用方針も含めて、ニーズとして意見を聞いておくべき。

質疑

- ・現在、各課が分散しているが、新庁舎では集約されることを表現してはどうか。市民の要望を聞くのはいいが、業務スペースに影響が出てはならない。

回答

- ・表現を加えること。

質疑

・問4-1について、現在色々な施設を利用している団体がある。その方々が諸室について利用したいという場合、今まで使っていた施設は利用するのかという疑問がある。設問で現在利用している施設について聞いてみてはどうか。

回答

- ・昨年度、公民館等を利用している団体に意向調査をした。状況としては、地域的に近いとか使い勝手がいいとか、逆の場合もあるなど色々な意向があり、新施設がそれらに変わるものではないと実感している。利用してみたい意向はあるが、確実に利用しますというのは傾向としてはなかった。
- ・3,000人を機械的に抽出してしまうと、既存施設の利用者に届くとは限らない。そういった特定の活動団体に対しては個別にインタビューを行った方がいい。
- ・一般の人との傾向が比較出来るように、設問は同じように設定し、利用者向けには個別に聞き取る方向性を検討したい。

質疑

・山口公民館や中央公民館で活動しているが、震災前は月に4回使っていたが、震災後は場所が限られており各団体月2回までとなっている。新しい施設ができれば色々な団体が利用すると思うが、ある程度の制約があったほうが平等に使えるのではないかと思う。現実的に新施設が出来れば公民館等は使われなくなると思う。

回答

- ・ユーザーの意見などは参考に出来る。運営の仕方のようなものについては、活用している方に聞いた方が良い。

質疑

・名称として防災拠点施設という言葉が出てくる。市民の大半は防災拠点の施設が出来るというイメージがある。災害時に防災拠点になるのはわかるが、普段は市民の憩いの場だ。防災という言葉を後ろにつけるなど、メインはふれあいの場所というイメージを出した方が良い。施設の名称についても募集しながらやると、市民の方もイメージが膨らむと思う。防災が前面に出ると暗いイメージになってしまう。

回答

・復興交付金の補助メニューを使うので、「防災」という言葉で表現している。後で公募するにしても名称について聞いてみるでもいい。

質疑

・前回のアンケートは全世帯だったが、今回は無作為ということでサンプル数が注目されると思う。様々な状況を判断しての数字だと思うが「3000」という数字の根拠は。

回答

・統計学的に、誤差の範囲で有効に使える数字が決まっている。宮古市の人口規模では「3000」となる。総合計画や公共施設のアンケートについても3,000人でアンケートを行っている。

質疑

・これは住民票を元に抽出するのか、世帯で抽出するのか。年齢はどうするのか。専門の業者に委託するとは思いますが、データの根拠についてはしっかりと示した方がいい。

回答

・個人で住所ごとに並べて抽出する。中心部だけに集中しないように、各地域の数は固定し実施する。1世帯で複数当たってしまった場合には1人にする、長期で不在の方や市職員については外すといった対応は出てくると思う。年齢については18歳以上を想定している。データについては市が直接抽出する。

・無作為という話をしたが、作為的にはある程度年齢や地域のバランスを見ていかなければならないと思っているので、そこは人の目を通して確認する。他の総合計画等のアンケートの回収状況を見ると約4割の回答をいただいている。1200くらいの回答は堅いだろうと思っているので十分なサンプル数になると考えている。

【委員長から】

今日色々な意見が出た内容を、事務局は意見を踏まえて、修正等を行うこと。場合によっては修正後のアンケートについて、皆さんに送って意見を貰う機会を作りたい。意味のある調査をするために頑張っていたきたい。

文書でも意見を提出することが出来る。気づいた点があれば事務局に意見を寄せて欲しい。

(3) その他

【事務局から】

次回の委員会は7月31日（金）午後3時から。場所は調整中のため後ほど連絡する。

事業計画地の現地説明のため移動。

事業計画地を陸中ビル3階から俯瞰した後、実際の場所に移動。

見学終了後、閉会。